

し、通過率は6割に届いていないことから、読み手の立場で文章を評価する力は十分とは言えない状況である。

今後は、書く活動の過程全体に自己評価や相互評価の場を積極的に設け、効果的に表現されているか確認したり、読み手の立場から客観的に評価したりする活動を充実させる必要がある。

## 2 結果を踏まえた改善策

これまで述べてきた課題を解決するために、「読むこと」や「書くこと」の領域の指導をどのように工夫していけばよいか、指導例を基に述べる。

### (1) 心情を表現や叙述と関係付けて読み取る指導の工夫

人物の心情は、行動の描写や場面の情景描写、会話などに巧みに表現されている。したがって、着目する言葉が分かり、それらを関係付けて心情を想像できるようにすることや、そのような学習活動の時間を確保することがポイントとなる。

例えば、指導例(図6)では、学習活動3で行動や情景描写、会話などを手掛かりに心情を考えさせ、学習活動4で以下のように根拠を挙げながら考えを発表させている。

- T 大造じいさんの行動で、「小屋にもぐり込んで待つ大造じいさん」と書いた人がたくさんいましたね。そのとき、大造じいさんはどんな気持ちだったのでしょうか。どの言葉からそう考えたのかも合わせて発表してください。
- C 「あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんで」は風景だけど、大造じいさんの意気込みも表していると思います。
- C 「しめたぞ」、「今年こそは」、「ぐっと」で、絶対捕まえるという強い気持ちが分かります。

前時	○ 1の場面～うなぎつりばりの方法で挑む大造じいさんの行動と気持ち ○ 人物の行動や様子の描写、会話など→心情
主 な 学 習 活 動	
1	本時の学習のめあてをもつ。 大造じいさんは残雪をとらえるためにどんな方法をとったか、また、どんな気持ちだったか。
2	2の場面を音読し、学習の進め方を確認する。
3	めあてに対する考えや根拠をもつ。 ○ 大造じいさんの行動 ・夏のうちからタニシを集め ・そのよく日も ・夜の間に小屋を作ってもぐり込む ・「ううん。」とうなった ○ 大造じいさんの気持ち ・小屋の中で待つ大造じいさん (あかつきの光/すがすがしく/ぐっとにぎりしめ) ・「ううん。」とうなる大造じいさん (またしても/してやられる/じっと見つめたまま)
4	考えを出し合い、大造じいさんの気持ちを読み取る。
5	めあてについての自分の考えをまとめて書く。
6	大造じいさんの気持ちを考えながら音読する。
次時	○ 3の場面～おとりのガンを使う大造じいさんの行動と気持ち、ハヤブサと戦う残雪の様子 ○ 人物の行動や様子の描写、会話→心情

図6 第5学年「大造じいさんとガン」の指導例

大事なことは、叙述から離れたところで、どれだけ心情を想像させても、的確な読みの力にはつながらないということである。したがって、前時と本時、あるいは次時の場面を対比させながら、言葉や表現の意味を考えたり、心情を想像したりして、自分の読みを深めることができるようにすることが大切である。

また、指導例のように、学習目標に関連する中心的な学習活動3・4を、展開部の中心に位置づけて、目標に対する評価を行ったり、一人一人の読みを交流させ、確かな読みに高めさせたりする時間を十分に確保することも大切である。

(2) 文章構成を明らかにし、要旨をとらえる力を高める指導の工夫

説明的な文章の要旨をとらえるためには、段落の要点をとらえ、段落相互の関係から文章構成を把握させることが大切である。そのためには、段落の要点を整理させた後、全体の文章構成を視覚的に把握できるように文章構成図にかかせる指導が挙げられる。

例えば、単元指導計画例(図7)では、第6時に文章構成をとらえ、要旨をまとめる学習が計画されている。

時数	主な学習活動
2	1 全体を読み、学習目標や計画を決める。 2 あらましをとらえ、感想を発表し合う。 3 まとまりごとに学習課題をつくる。
4	4 ホタルのすむ場所の調査を読み取る。 5 ホタルがいなくなったわけをまとめる。 6 段落相互の関係をもとに文章の組立てをとらえ、要旨をまとめる。
3	7 環境について、自分の調べたい課題や調べる方法を決める。 8 課題について調べ、発表の資料を作る。 9 環境について考えたことを発表し合う。
1	10 単元の学習をもとに、感想や意見を話し合う。

図7 第5学年「ホタルのすむ水辺」指導計画例

この指導計画では、第1・2時で、「話題提示—説明(考えの根拠となる事実や考え方)—結論」の大きなまとまりをとらえさせ、第3～5時で、まとまりごとに各段落の要点を読み取らせている。

そこで、第6時で図8のように要点を整理させた後、図9のようなワークシートを利用して、段落相互の関係や文章全体の構成を把握させる。これにより、⑪段落を中心に要旨をとらえればよいことを理解させることができる。

⑪ ⑩ ⑨	⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ②	①	段落
結論、筆者の考え	調査の説明、分かったこと	問題提示	
ホタルが教えてくれたわたしたちの課題 生活や産業の近代化とホタル 水のきれいさとホタル	殺虫剤で消えた「かや」とホタル 「かや」とホタル 街灯がついていなくなった理由 街灯がついていなくなったホタル 家々の間を流れる川にすむホタル 家々の間を流れる川にすむホタル	ホタルがいなくなったのは？	要点

図8 まとまりごとの要点

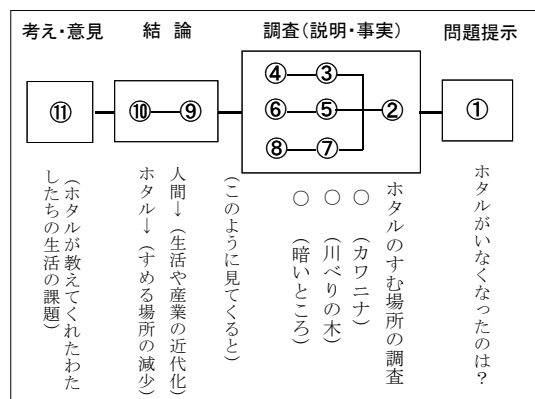


図9 文章構成のワークシート例

(3) 自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を高める工夫

自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を高めるためには、何のために(目的意識)、誰に(相手意識)、何を、どのように(方法意識)伝えるか、そして、どのように伝わったか(評価意識)を明確にもたせることが大切である。

そのためには、各領域を関連させた指導を行ったり、他教科や体験活動などで意見発表や交流の場を意図的に設定したりして、生活化を図ることが大切である。

例えば、指導計画例(図10)では、単元の導入で、相手(4年生)や目的(5年生で取り組む活動を知らせる)、内容(自分の伝えたいこと)、具体的な場(活動報告会)などを明確に示している。

時数	主な学習活動
1	1 「5年生の活動報告会」を開き，4年生に，5年生の生活を知らせる計画を話し合う。
4	2 5年生で体験し，心に残ったことの中から，伝えたいことを作文に書く。 (1) 伝えたいことを決める。 (委員会，クリーン活動など) (2) 伝えたいことをカードに書き，整理する。 ・ どんなことをしたか ・ どうして心に残ったのか ・ 思ったこと，考えたこと など (3) カードの順序を基にして文章を書く。 ・ 読み手に分かりやすい組み立て
2	3 目的や相手を考えて，スピーチをする。 (1) スピーチ原稿を作る。 ・ 目的，相手，内容，時間，場所) ・ 聞き手に分かりやすい組立て (2) スピーチの練習をする。
2	4 「5年生の活動報告会」をする。 5 学習のまとめをする。

図10 「わたしたちの学校生活」指導計画例

また，作文指導で最もつまづきが多いのは，何を，どのように書けばいいか分からないということである。図10で言えば，学習活動2(1)～(3)に当たる。

このような場合，付箋紙やメモカードを利用して，事柄をできるだけ多く書き出させることが大切である。また，図11のようなウェブライティングで連想によりくわしく思い出させることもできる。

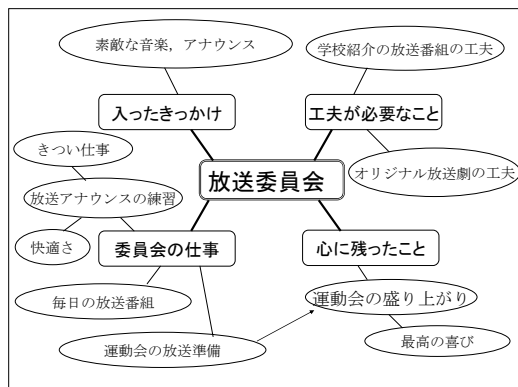


図11 ウェブライティングの例「放送委員会」

ウェブライティングは，まず，中心

に，伝えたいテーマを書かせる。

次に，その周囲にある「入ったきっかけ」「心に残ったこと」などの言葉を手掛かりにして体験を想起させ，連想した事柄を語句や短文で自由に記入させる。教師は児童の印象の深い部分や想起の少ない部分などを視覚的に把握できるため，取材・構想，記述などにおいて，具体的な支援をすることが可能となる。

指導計画例(図10)でもう一つ注目したいのは，学習活動3(1)「スピーチ原稿を作る」である。作文に比べ，スピーチは目的や聞き手の状況，時間などによる制約が大きい。そのため，聞き手の立場から文章を再構成したり(図12)，話し言葉への修正などをしたりする必要がある。したがって，原稿作りの過程全体を通して，自己評価や相互評価を取り入れ，評価意識を高めていくことが大切である。

【作文】	【スピーチ原稿】
1 放送委員の晴れ舞台—運動会	(持ち時間2分) 1 話すことの大まかな内容
2 放送委員会に入ったきっかけ	・ 放送委員会で学んだこと
3 放送委員会の仕事の大変さと大切さ	2 入るきっかけ
4 放送劇の話合い，練習，収録	3 放送委員会の仕事の大変さと大切さ
5 放送委員会の仕事を通して学んだこと	4 放送委員の晴れ舞台—運動会
	5 4年生への呼び掛けの言葉

図12 作文とスピーチ原稿の構成比較

ここに指導法的一端を示したが，各学級の児童の実態に応じて，さらに工夫改善を加え，基礎・基本の一層の定着を図られることを期待したい。(企画課)